

まちづくり活動提案書

（ 地域“魅力”アップ部門 ・ “はじめの一步”部門 ）

※助成を受けようとする部門を○で囲んで下さい

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

団 体 名	名古屋大学科学部		
提 案 名	名大生直伝生き物探索術 「生き物マップを作ろう！-名古屋城近辺編-」		
提案活動を行 う 地 域	名古屋城外周辺地域(名古屋市中区)		
提案の背景	(活動を提案するに至る問題・課題などの背景を、簡潔にご記入ください。) ・都市部におけるゴミ問題の認識の希薄 ・市内における自然保全、環境美化活動の周知		
提案活動の 目的・目標	(活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください) ■目的 名古屋市内で市民と学生が協働した「自然学習」と「環境美化」活動を実践する。 ■目標 フィールドワークを開催し、小学生以上を対象に一般市民30名の参加を目指す。 ■成果 作成した名古屋城周辺の生物マップを、本活動内外でシェアし参加者及び市内在住者のゴミの捨て方・環境保護の重要性を考える。		
提 案 の 内 容	(上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。) ■名古屋市は日本の中でも三大都市として位置づけられるが、都市問題の一つであるゴミの散乱は、都市の環境を汚染するだけでなく、その自然に棲む生き物にとっても極めて有害であり、生き物の生態系を蝕む深刻な問題とも言える。そこで、本企画では都市におけるごみ問題を再認識する為、市内における観光地として有名な名古屋城の近辺環境に住む生き物を観察し、その地点を記録しマッピングする。■生物マップの作製と同時にゴミ拾いも実施し、環境美化活動に貢献する。■捨てられたゴミの種類と地点を記録し、生き物が棲む場所とゴミが捨てられている場所の相関関係を調べ、生態調査を行う。■名古屋大学の学生と、名古屋市に在住している市民とが協働して活動することで大学-地域の関係性を強める。■環境保全活動の一環として、最終的に参加者全員で作成した生物マップを参加者内外に向けて、公開しまちづくり活動の一例として広めていく。		
活 動 期 間	平成 28 年 8 月 ~ 29 年 3 月	助成金交 付 申 請 額	5 万円

2 提案内容の視点

以下の視点で提案内容についてご記入ください。

<p>審査基準① 必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か ・工事を伴う活動の場合、公益性、公共性のあるものか
<p>(提案活動の必要性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。) ※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域をより住みやすい環境に住民たちで作りあげる意識を再認識する活動や市内における環境美化を行う活動が少ない。週末観光客が溢れかえる観光地では、環境の汚染や道路に散らばるゴミは目に留まることもあり美しい街づくりを心掛ける必要がある。 ・近年、小中学生の間では教育現場における「理科離れ」が深刻な問題となっている。理科科目の単元の一つである「生物」について、市内に生息する生き物(植物、昆虫、微生物など)を観察し、生息場所を記録することで、生き物に触れる機会を設け「生物多様性」の理解を養うワークショップを行う。多様な生き物の観察を通じ、生命科学の基本である生物と住む場所の関係性を見出し「理科」教育の一環として貢献する。 	
<p>審査基準② 独創性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか
<p>(提案活動の独創性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの回収とその自然環境に棲む生き物の観察を同時に行う。観察できた生物は、その地点を記録し、その道中におけるゴミの回収を行う。ゴミが捨てられた地点と昆虫(動物)、植物が生息していた地点の環境を記録し、両者を比較する。このことで生き物が生きていくためには、より自然に近い場所を好むと同時に綺麗で汚染されていない川や草の茂みでなければ生息できないという認知を深める。生物の種類と生息場所の関係性をマップとして記録する。 ・最も多くのゴミを回収した参加者を上位数名を表彰する。 ・当日名古屋城付近の屋内施設を使い生物マップを参加者みんなで作成する。作成した生物マップは参加者に後日取りまとめて配布する。また、実施に協力してくれた名古屋城を含め広く広報していき、まちづくり活動の一環としての取り組みを周知していく。 	
<p>審査基準③ 実現性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提案内容が具体的になっているか ・自己資金を含め、活動内容や資金計画などは妥当か ・場所や人員、規模などは妥当か
<p>(提案活動の実現性について上記観点から分かりやすくご記入ください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に関わるメンバーで作業役割分担を行い、広報、制作、渉外、企画運営の各カテゴリでの作業を進めている。 ・当日の開催運営についても上記に役割を割り振ったメンバー全員で、参加者の補助や企画運営に務める。 ・開催に当たり参加者には保険を加入してもらう。また、危険生物(蜂など)に対する警戒を呼び抱えるとともに虫よけスプレーや救急箱などを用意し安全に配慮する。 	
<p>審査基準④ 発展性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか ・工事を伴う活動の場合、成果物はまちづくりにどのように活かされるか
<p>(提案活動の発展性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の活動をきっかけに、「地域-大学」、「環境学習」、「サイエンスコミュニケーション」の3つの軸で活動する第一歩とし、大学(学生)と地域(市民)が協働して環境美化活動を行う事例として、定期的に市内で広くサイエンスコミュニケーション活動を行うことを展望として掲げる。 ・名古屋市内における自然環境の保全を考える住民の意識が向上すると予想される。 ・成果となる生物マップを参加者内で共有し、最終的には活動報告として大学や名古屋市教育委員会等場所で宣伝し、活動の認知に努める。 	

審査基準⑤ 活動実績 と主体性	・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか ・具体的にどんな熱意を注いでいるか ・工事を伴う活動の場合、自ら主体となって工事を行い、継続的に維持管理する能力があるか
-----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------

※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。
 ※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。
 この場合、公正を期するため、A4判3枚(両面)までを限度とさせていただきます。

(団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。)

名古屋大学を中心に「サイエンスをもっと身近に」を目標とするサイエンスサークルです。私たちはサイエンスを知って楽しみ、そして盛り上げる「場＝アゴラ」を創りだすことを目指しています。「サイエンスへの思いや興味」は身近な友人、家族、と楽しみたいものですが、一般の方々にとって、「科学を共有する場」は大学や博物館などへ足を運ばないと参加することは難しいのが現状です。そこでKagaQでは「サイエンスを楽しむ場」を創る為として、現役大学生の斬新なアイデアで年代層にも親しまれるような企画作りに、学生目線に取り組んでいます。活動理念として「楽しむ」「学ぶ」「やってみる」の3本を軸として、活動を行っています。

【活動内容①：トークライブ】

科学にまつわるテーマを設定し、その題材に沿った専門の先生をゲストとしてお呼びし、ライブ感覚でトークを楽しむ新感覚サイエンスカフェを行っています。(これまでにを行った企画のテーマとして数学、減災、医療などがあります。) トークライブ中に、疑問に思ったことや、参加する前から不思議に感じていたことなど、参加者が抱く関心をリアルタイムで生の声として、講師の方が受け入れ対応できる環境を目指しています。トークライブでは講師-参加者の垣根を越えてサイエンスを体感・共感できること、ディスカッションができることを目標としています。

【活動内容②：実験教室教室】

現役大学生とちょっぴり厳しいサイエンスの奥深さを学ぶ小学生向け実験教室「実験教室」では、小学生から一般の方を対象とした簡単な工作や科学実験を行う企画を実施しています。実験教室では、参加者の方々に科学の面白さや不思議さを体感してもらうことを狙いとしています。これまでに、エジソン電球の作製やゲルマニウムラジオ、名古屋大学東山キャンパスで行った生物マップ作り、名古屋大学博物館で行った結晶の形をテーマにした実験教室を開催しました。

【名古屋のから全国に向けて発信】

サイエンスを体現できる「場」を作り出す努力を行う中で、2015年11月には東京都にある日本科学未来館で開催されたサイエンスアゴラ 2015に出展し、私たちが行っている活動を全国に向けて発信しました。このイベントでは、初参加ながら2日間で500人を超える方々に訪問いただきました。この他に、名古屋大学主催のあいちサイエンスフェスティバルにも出場し、サイエンスの魅力を伝えてきました。

3 提案活動にあたり他団体、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等と取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
・ KagaQ(カガク)	フィールドワークにおける作業補助及び、企画の広報協力 広報における活動後援の記載 活動実施における広報活動の協力、実施許可
・ 独立行政法人 名古屋大学	
・ 名古屋市観光文化交流局名古屋城総合事務所	

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

※活動目的が別々団体だが、協力関係にある団体の為記載しました。